



久しぶりの母校訪問にて

東明館高等学校 第一期生
ホテル グランデはがくれ
企画室 企画係長 牛島 司

約 25 年ぶりに学校を訪問しましたが、まず、学園の周辺の様変わりに驚きました。

以前にも増して、澄んだ空気と落ち着いた環境だったので、学問を志すには、最適の環境であると感じました。

久しぶりに校舎を拝見した際、昔を思い出し、何気に「ここに入学したから、今の自分があるのかな」と感じました。そう考えると、東明館での 3 年間は、今の私の将来の方向性を導いてくれた貴重な学園生活だったように思います。

そこにはたくさんの友がいて、また必死になって頑張ってくれる先生方のご支援もあり、私なりに「生きる力」を養うことができたように感じます。

今、私が社会の中で思うことは、「自己啓発力のない人間が多い」ということです。自己啓発力を身につけることが、世の中を強く生きていくうえで最も大切だと感じます。また、それは、社会に出てからではなく、中学、高校、大学生活で培われるものであることです。

そういった意味では、東明館での 3 年間は、私に色々な活動を通して、自己啓発力を身につけさせ、「生きぬく力」を育むきっかけを与えてくれたのかもしれない。

勉学に励み、成績を伸ばすことも大切ですが、それ以上に「社会」というこれからの集団組織の中で、自分の立つ位置を常に意識しながら、世の中を生きぬく力を身に付けることも、生きていくうえで大切な要素であると思います。「勉強ができる成績の良い人間」ではなく、「魅力ある明朗快活な賢い人」になってもらいたいです。

私も二児の父親になって初めて「学校」の大切さを痛感しています。生徒の皆さんにとって、学校は「開かれた環境」でなければならないと思いますが、昔から東明館にはその環境が存在します。だらだらと過ごす一日も、必至に過ごす一日も同じ一日。であるなら長いスパンではなく、まずは短期的な目標を設定し、一所懸命に過ごしてほしいと思います。

また今ある物事すべてが「あたりまえ」ではなく、両親を含む家族や先生方に「支えられていること」を理解し、3 年間という長いようで本当に短い学園生活を大切に過ごしてください。

東明館学園の伝統は、学校側が創るものではなく、生徒たちが革新を続けることで、新しく創られていくと思います。学園の生徒の皆さん、志を強くもってください！そして限られた 3 年間～6 年間で悔いのないよう過ごしてください。